

2

檢事 福鎌 芳隆 校閱

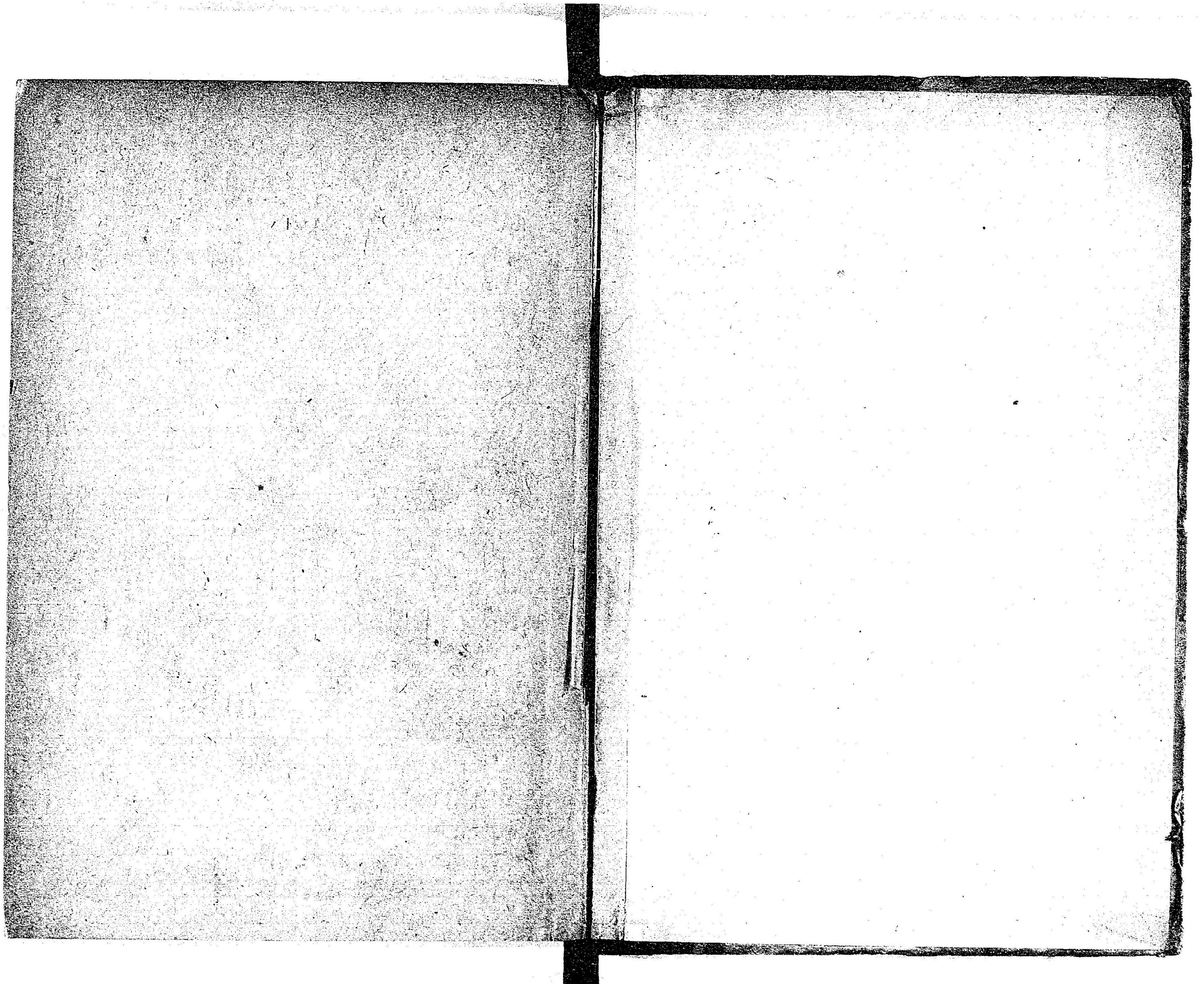
鈴木 源策 著

日本刑法初步

全

明治十六年五月印行

4



特15
420

檢事 福錄芳隆 校閱

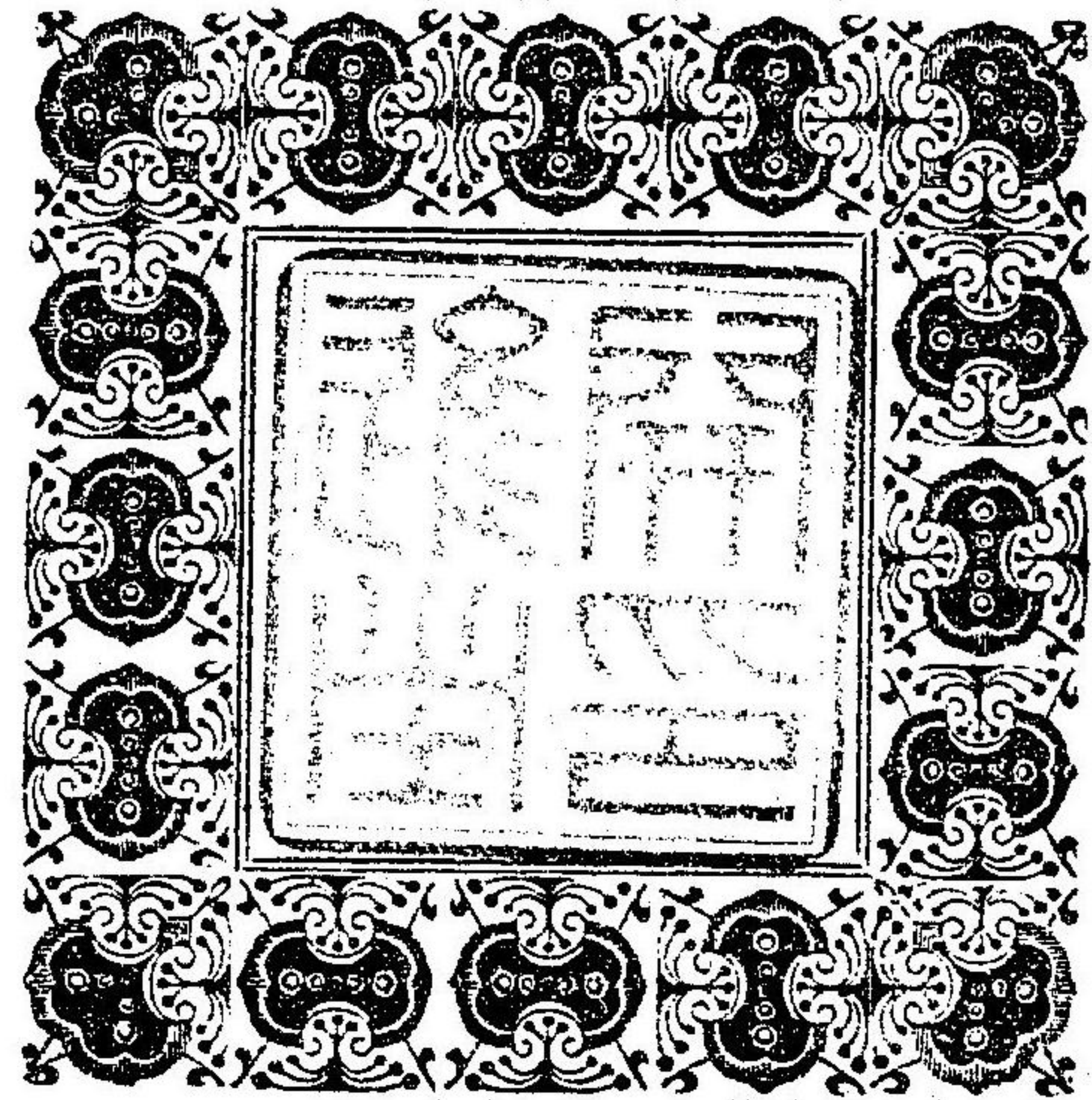
鈴木源策 著

日本刑法初步

全

明治十六年五月

開進堂藏版



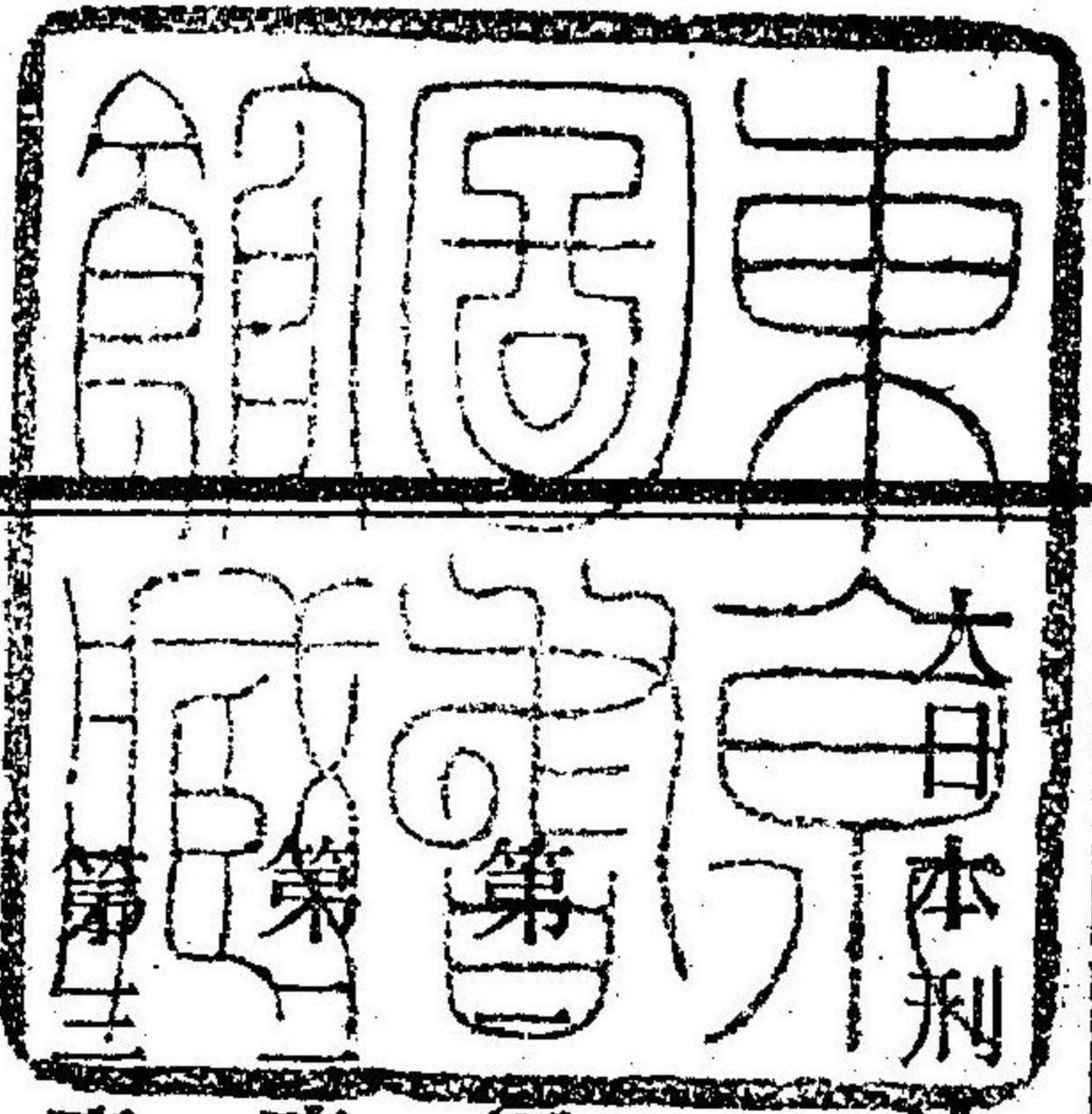
空谷



市得

可
以
得
士





東國法律初歩

第一章	法ノ區別	一	丁數
第二章	刑ノ主意目的	十三	
第三章	刑罰適用方	二十二	
第四章	假出獄	二十六	
第五章	公訴及刑ノ期滿免除	三十一	
第六章	復權	四十一	
第七章	不論罪宥恕其他減輕	四十九	
第八章	數罪俱發	六十九	

第九章 再犯其他加重

七十三

第十章 數人共犯

七十九

第十一章 未遂犯區別

八十六

余曾テ識者ニ聞ク正文以テ之ヲ明示スルニアラサレハ何等ノ行爲モ罰スルヲナキハ定法ノ原則ナリ其己レニ對シ人ヨリ施ス所ノ行爲中心嫌惡ス可キ事項ヲシテ人ニ施スヲ謹戒ス可キハ天澤ノ主眼ナリ故ニ定法禁ナキ行爲ハ罰ナキヲ以テ專行スルモ自由ナリト誤認シ天法ニ背戾スルヲ知ラス廉耻ノ色ナキ者ノ如キハ決シテ善良ノ人ニ非ラサルナリ然而シテ教法ハ以テ善良ニ導キ刑法ハ以テ不良ヲ矯成スルノ器ナリ吾新法ノ如キ歐洲諸邦ノ良法ヲ斟酌シ撰定スル所ニシテ專ラ過悔遷善ノ情ヲ感起シ良民ト伍列シ天賦ノ權利ヲ完全ナラシム

ルノ旨趣實ニ無缺ノ美法ト可謂ナリ余識者ニ就テ聞ク
所ト余ノ確信スル所トナ併セ一編ヲ著シ之ヲ刑法初步
ト題ス其說ノ不盡ナル所ト偏見誤謬アラハ他日識者ヲ
俟テ訂正セントス

明治十六年三月

著者誌

日本刑法初步

鈴木源策著

福鎌芳隆校閱

第一章 法ノ區別

法ナルモノハ先大別シテ二類トス其一ヲ天法ト云ヒ其一
ヲ定法ト云フ

天法ナルモノハ天地自然ノ道理ニ基ツク可キモノニシテ
敢テ政府ヨリ布告シ人民ヲシテ遵守セシム可キノ命令ア
ルモノニアラス

是ヲ以テ人々天法ニ背戾スルモ定法ニ於テ命示シタル範

圍ノ中ニアラサレハ顯然タル罰ナキカ如シト雖モ決シテ然ラサルナリ

屢々天法ニ背キ不道理ノ行爲アルモノハ生涯己レノ争ク可キ幸福ヲ拋棄スルモノニシテ若是等ノ人不幸ニ陥リタル時ノ如キ決シテ他人ヲ顧ミサルニ至ルモノナリ
看ヨ社會人々中不正直ニシテ人ト約スル事項ヲ履行セス又ハ他人ヲ非謗シテ自己快樂ノ一トスルカ如キ行爲アルハ稀レニ見ル所ナリ

斯レ敢テ定法ノ禁止スル所ニアラサルヲ以テ顯然タル罰ナシト雖モ是等ノ行爲アル人ニ對シテハ各人嫌厭忌避ス

ルノ情ヲ發シ自然此人ト交際ヲ爲スヲ欲セサルニ至ラン然ラハ則天自然ニ此人ニ與フル無形之罰ニシテ此人ヤ畢生間幸福ヲ享ルヲ甚ダ少キハ理ノ然ルヘキモノトス
前例ニ反シ能ク人ト交ルニ信ヲ以テシ言行齟齬スルヲナク百般ノ行爲苟クモ他人ノ害トナル可キヲハカメテ之行フヲナク公益トナル可キ事項ハ瑣事モ之ヲ行ヒ能ク其分ヲ守リ其業ヲ勵ムモノアルニ於テハ必スヤ此者ヲシテ人々尊信シ隣里舉テ之ヲ賞賛スルニ至ラン
斯レ天自然ニ此人ニ與フル無形ノ恩賞ナルヤ疑ヒテ容レサルナリ

天法ハ唯一種ニシテ別段種類アルヲナシ
 定法ハ天法ト異リ各種類アルモノナリ
 定法トハ人類ノ制定シタル所ノ法ニシテ其時勢人情ノ適
 度ニ從テ時々變更アルモノナリ
 定法ハ立法者之ヲ撰定シ後行政府之ヲ一般ニ布告シ人々
 ナシテ必ス遵奉セシムルモノ是ナリ
 是ヲ以テ人々若シ定法ニ背馳シタル行爲アルニ於テハ顯
 然タル自己ノ不利ヲ生スルモノトス
 定法ヲ大別スレハ公法私法ノ二類ニ分ツ公法中内部ノ公
 法アリ又外法ノ公法アリ

内部ノ公法トハ例ヘハ憲法刑法治罪法行政法等ヲ云フモ
 ノニシテ要スルニ其政府ト國民トノ間ニ於ル諸件ヲ規定
 シ國內ニアル人々ナシテ必ス遵奉セシムルモノ是ナリ
 外部ノ公法トハ則萬國公法ノ類ニシテ要スルニ國ト國ト
 ノ關係ニ付テノ諸件ヲ規定スル者是ナリ
 又私法トハ民法訴訟法商法等ノ類ニシテ要スルニ私法ハ
 其國內人民相互ノ間ニ於テ行フ諸件ヲ規定シタルモノニ
 シテ人事若クハ財産所有等ノ權利義務ヲ確定セント欲セ
 ハ宜シク此法ニ照據ス可キニアリ
 公法中獨リ刑法ハ各人爲ス可カラサル所爲ヲ撰定シ之ヲ

行フヲ禁シ又國民必ス行ハサルヲ得サル事項ヲ法律ニ於テ命令スル所ニ背キ之ヲ行ハサルヲ禁シ若シ其指示スル所ニ背ケル者ハ之ヲ罰ス可キヲ明示シタルモノナリ

是ヲ以テ刑法ニ背戻スル者ハ忽チ顯著ナル罰ヲ免レサルモノトス

刑法中數種ノ事項ヲ編纂シテ頒布シタルモノト或事項ニ付單ニ特定シテ頒布シタルモノト別アリ編纂シテ頒布シタルモノトハ明治十三年七月十四日發令同十五年一月一日ヨリ實行セシモノ是ナリ

又特定頒布ノ刑法トハ或一事ニ付テ單ニ布令シタルモノニシテ例擧スレハ集會條例出版條例銃砲取締規則土地欺隱者處分鐵道電信條例度量衡取締郵便規則富國買得取締新聞寫眞條例日本坑法賣藥規則毒藥劇藥取締規則鳥獸獵規則証券印稅規則酒造及醬麴稅規則烟艸稅規則地券稅規則傳染病規則船燈規則難破船漂流物取扱規則危害品船積規則諸公債証書ニ關スル諸規則石炭油取締規則銀行株式米商等諸條例其他總テ罰目ヲ掲ケタル單行布令是ナリ

何ヲ以テ是等ノ禁令ハ編纂刑法中へ掲載セサルヤノ疑問アラシク特別ニ單行令ヲ以テ布告スル所以之モノハ大

ニ便宜トスルモノアレハナリ
 何トナレハ是等ノ條例規則ノ如キハ將來時々改正セサル
 ナ得サル場合多キヲ以テ若シ之ヲ編纂刑法中ニ掲出スル
 ニ於テハ管ニ編纂刑法ノ錯雜ヲ生スルノ恐レアルノミナ
 ラス加除増損ノ毎時刑法全體ノ箇條ヲ變更シ執法官ノ記
 憶ヲ毀テ條件檢出之不便ヲ生ス例ヘハ一條ヲ削レハ全體
 一箇條ヲ繰上ケ一條ヲ増ス時ハ全部一箇條宛ヲ繰下ゲサ
 ルヲ得ス斯ク各條ニ變動ヲ生スルハ實ニ不便ト言フ可キ
 ナリ加之刑法類別ノ完全ヲ毀損スルノ恐レ亦不少ナリ故
 ニ寧ロ單一ノ布令ヲ以テ將來加除更正ノ便宜ヲ得ルニ若

カサルナリ

斯ク編纂刑法及特定布令ヲ以テ普ク社會公衆ノ害トナル
 可キ行爲ハ之ヲ禁スルト雖モ社會人類百般ノ行爲ヲシテ
 能ク禁止盡スル能ハサルハ勿論ナリ然レモ元來人類ハ性
 善ナルモノニシテ各々本心ニ於テ苟クモ人ノ害ト爲ル可
 キ事項ヲ實行スルニ際シ善良ナル事ト信認シテ行フモノ
 ハアラサルナリ故ニ刑法ニ於テ之ヲ禁セサル事項タリト
 雖モ其他人ノ害ト爲ル可キ行爲ハ己レノ良心ヨリシテ之
 ヲ行フヲ得サルハ自然ノ情狀ナリトス
 然ルニ定法ニ禁セサル事項ハ何等ノ行爲モ之ヲ實行シテ

自由ナリト誤認シ他人ヲ害スルノ有無ヲ顧慮セサルモノ
稀レニ見ル所ナリ是大ナル誤認ト云可シ
定法ノ事ハ既ニ前ニ畧述セシ如ク立法者之ヲ撰定シ政府
之ヲ布告シ人民ヲシテ遵奉セシムルモノナルヲ以テ人民
宜シク之ニ背馳セサルヲ要ス且刑法ノ如キハ萬一ニモ之
ニ悖戾スル時ハ忽チ顯著ナル罰ヲ免レサルモノトス然レ
モ刑典ニ明示セサルノ行爲ニ於テハ假令現ニ他人ノ有害
ナル行爲モ之ヲ罰スルヲ得ス先哲ノ格言アリ法ナケレ
ハ罰ナシト斯定法ノ原則ニシテ万古不變ノ格言ナリ
然レモ斯レ只定法ノ原則而已若是ヲ誤解シテ刑典ニ於テ

禁○セ○サ○ル○ノ○行○爲○ハ○假○令○他○ノ○害○ト○ナ○ル○可○キ○無○道○ノ○事○項○モ○專
ラ○之○ヲ○行○フ○ヲ○得○ル○ト○思○意○ス○可○カ○ラ○ス○假○令○刑○法○ニ○明○文○ナ
キ○事○項○ニ○シ○テ○定○法○之○ヲ○罰○セ○サ○ル○モ○已○レ○ノ○良○心○ヨリ○奉○ス○可
キ○天○法○ニ○背○戾○ス○ル○ヲ○以○テ○其○無○形○ノ○罰○ハ○決○シ○テ○免○レ○サ○ル○モ
ノ○ト○ス○茲○ニ○一○例○ヲ○擧○ケ○以○テ○定○法○ノ○罰○ナ○キ○ニ○安○ン○シ○天○法○ニ
背○戾○ス○ル○ヲ○知○ラ○サ○ル○モ○ノ○ニ○等○シ○キ○モ○ノ○ヲ○辨○セ○ン
明治七年ノ頃我政府ハ僧侶肉食妻帶ノ事ヲ解禁セラレタ
リ斯レ其精神タルヤ佛法ニ禁スル所ヲ以テ定法之ヲ禁ス
ルノ謂レナシ是ヲ以テ成定法ト佛法ト混同スルハ厭忌ス
可キ事トシ成法上此禁ヲ解キ假令佛法禁スル所ノ肉食妻

帶ト雖モ成法之ヲ闕フ所ニ非ラサルヲ示セル而已故ニ成法此禁ヲ解クモ佛祖ノ禁スル所ハ依然ト變スルヲナシ然ルニ此解禁ノ令發アルヤ若シ僧侶中自ラ奉スル所ノ佛禁ヲ遺忘シ肉食スルモ自由ナリ妻帶スルモ自由ナリト思意シ急ニ魚鳥ノ肉ヲ食シ或ハ妻妾ヲ蓄養シ恬然耻ル色ナキモノアルニ於テハ是成法アルヲ知テ自己ノ奉ス可キ佛法アルヲ知ラサルモノト云フ可シ其己レノ奉ス可キ佛法ノ罪人タルコトヲシテ知ラサルモノト謂フ可キナリ豈笑止ノ至ニ堪ヘサルニアラスヤ

刑典明文ヲ掲ケサル事項ニ付テハ何等ノ行爲モ是ヲ專行

スルヲ得ルモノト思意シ他ノ害ヲ顧ミサルニ於テハ自己ノ良心ヨリ奉ス可キ天法ヲ遺忘シ無形ノ罰アルヲ知ラサルモノニシテ恰モ前例佛法犯禁ノ僧侶ト少シモ異ルヲナシ

故ニ假令成法明文ヲ欠クノ事項ト雖モ他ノ害トナル可キ行爲ハ力メテ之ヲ實行ス可カラサル様意ヲ注ク可キハ實ニ緊要ノトトス

第二章 處刑ノ主意目的

人類自己ノ本心ニ違ヒ惡業ヲ行フ者ニ對シ刑罰ヲ科スルノ權ハ如何ナル理ヨリ生スルヤノ問題ニ至テハ數類ノ說

アリ或ハ社會ニ加ヘタル損害ヲ復讐スル爲メ之ヲ罰スル
 ナリト云ヒ或ハ社會ニ與ヘタル損害ヲ賠償セシムル爲刑
 罰ヲ行フモノナリトシ又ハ社會ノ約束上ヨリ之ヲ罰スル
 モノトシ其他各種ノ說アリ然レモ是等ノ諸說ハ未タ完然
 ナリトスルヲ得ス
 何トナレハ其刑罰ヲ行フノ點全ク復讐ヨリ起ルモノトセ
 シカ宜シク其現象ニ因テ斷セサル可カラス果シテ現象而
 已ニ依ル時ハ人ヲ殺シタル者ハ之ヲ殺シ人ヲ傷シタル者
 ハ之ヲ傷セサルヲ得ス若シ如此刑ヲ用フル時ハ其犯罪ノ
 原由情狀等ヲ斟酌スルヲナク大ニ輕重其宜シキニ適セサ

ルヤ論ヲ竣ス例ヘハ人ヲ殺スニ無意ナルアリ又故意ナル
 アリ其他種々ノ情狀アルモノヲシテ單ニ現象ノミニ依ル
 時ハ等シク被殺者ナルヲ以テ皆其犯人ヲ殺サ、ルヲ得サ
 ルニ至ル如此時ハ到底野蠻ノ誹リヲ免レサルナリ故ニ刑
 罰ヲ行フノ主意復讐ノ點ナリトスル說ノ如キハ完然ノ論
 ニ非ラサルナリ
 亦タ社會ニ與ヘタル損害ヲ賠償セシムルノ說ニ於テモ決
 シテ其然ラサルヲ知ル何トナレハ損害ヲ賠償スルハ自然
 刑罰ト別種ノモノナレハナリ其他ノ說モ又完然ナリトス
 ルヲ得ス

茲ニ歐州法律博士「オルトラン」氏ハ社會上ノ害道義上ノ惡並發スル者ハ之ヲ刑セサル可カラスト是實ニ完然無欠ノ說ト云フ可シ

凡ソ社會ハ道義ヲ敬重シ公益ヲ保全スルノ權アリト雖モ單ニ道義ヲ敗ルノミニシテ未ダ社會ヲ害スルニ至ラサレハ之ヲ刑スルヲ得ス既ニ道義ヲ敗リ亦公益ヲ害スル時ハ之ヲ刑セサルヲ得ス世未ダ單ニ公益ヲ害シ道義ヲ敗ラサル者ハアラサルナリ是ニ於テ之ヲ觀レハ權利ノ在ル所知ル可キナリトハ曾テ佛人カンベー氏ノ說明ニシテ其刑罰ヲ行フノ理實ニ灼然トシテ火ヲ觀ルヨリ明ラカナリ

斯ク道義ヲ敗リ並ニ公益ヲ害スル所爲アル者ヲ罰スル目的如何ヲ探究ス可キハ亦大ニ必要ノトトス

凡ソ人タル者本心ニ背キタル行爲ヲ以テ公益ヲ害スル時ハ宜シク之ヲ罰シ一ハ以テ犯人ヲ懲ラシ悔悟遷善ノ情ヲ發セシメ一ハ以テ後來社會ノ害ヲ除キ一ハ以テ他ノ公衆ヲシテ大ニ鑑戒スル所アラシムルニアリ

故ニ各其行爲社會ヲ害スルノ輕重及公衆危懼ノ念ヲ生スルノ厚薄ニ從テ之ニ適應スルノ刑罰ヲ科シ犯人ヲ懲戒シ前非ヲ悔ヒ天賦ノ良心ニ復シ後來社會各人ノ危懼ヲ除クノ目的ハ刑法ニ希望スル主眼ナリ故ニ其犯人ニ科スル所

ノ刑ヲ執行スル元ヨリ犯人ヲ痛苦困究セシムルノ目的ニ
 アラスト雖モ又以テ寛ニ失スルヲナク嚴重其刑ノ執行ヲ
 爲ス可キハ司獄官吏ノ任ナリ余ハ犯人ヲシテ過悔遷善能
 ク良心ニ復スルト否ハ司獄官吏ノ所遇良否ニ因ルモノナ
 リト信スルナリ故ニ司獄官吏ハ犯人ヲ遇スル宜シク酷ナ
 ル可ラス寛ナル可カラス其嚴ナルヲ要ス
 是ヲ嚴ニスルトハ能ク獄則ヲ謹守セシメ定役ヲ勉強セシ
 メ若獄中不良ノ行爲若クハ不當言語ヲ發スル時ハ力メテ
 天賦ノ良心ニ復ス可キノ道理ヲ諭示スルヲ二意ヲ注ク可
 キヲ要ス若シ之ニ反シ寛ニ流レ酷ニ失スル時ハ或ハ狃レ

テ恐ル、所ナク或ハ怨ミテ改ムル所ナク遂ニ懲戒ノ效ヲ
 奏セスシテ刑ヲ科スルノ目的ヲ達スル能ハサル而已ナラ
 ス監獄ヲシテ惡業ノ方法ヲ研究スル修行場タルノ景狀ヲ
 顯ハスノ恐レアリ司獄官タル者豈茲ニ意ヲ注カサルヲ得
 シヤ

前ニモ述ルカ如ク其刑ヲ科スル所以ノモノヲ約言スレハ
 罪犯ヲ懲戒シ過ヲ改メ善良ノ人トナリ後來良民ト伍スル
 ヲ得セシムルニアリ唯死刑ノ如キハ社會ニ與ヘタル所ノ
 害最大ニシテ公衆危懼ノ情ヲ發スル甚タ厚キヲ以テ其犯
 人ノ靈魂ヲ絶チ此人ヲシテ全ク社會ニ存在セシメス加之

他人之ヲ聞知シテ大ニ畏懼ノ情ヲ發シ瞑々ノ中ニ於テ惡意ヲ翻變セシムルニアリ

人惡業ヲ爲ス其原因千差万別ナリト雖モ恐ラクハ本心ヨリ其行爲ヲ善良ノト見認ムルモノアラサルナリ試ニ看ヨ不孝姦盜殺傷毆打何レノ行爲ト雖モ此業ヲ指シテ善良ノ所爲ナルヤト問フニ於テハ如何ナルモノト雖モ尋常ノ知覺アル者ハ不良ノ所爲ナル旨ヲ答フルハ必然ナリ此不良ノ所爲ナルヲ知テ之ヲ行フ所以ノモノハ情慾ノ制ス可カラサルヨリ一時ノ過チニ出ルモノナリ故ニ一ト度過テ不良ノ所爲ヲ行フモ速ニ改良本心ニ復スル時ハ社會良民

ト伍シ天賦ノ權利ヲ全フスルヲ得之ニ反シ一ト度過テ罪辟ニ係リ一身洗除ス可カラサル汚辱ノ罪名ヲ附着サレタル身體ナリトシ寧ロ飽迄不良ヲ爲ントスルカ如キハ其過ヲ改ムルノ道ヲ知ラサル愚者ニシ畢生間社會ニ立テ人類ノ交際ヲ爲ス能ハサル而已ナラス社會公衆ニ嫌厭セラレ生涯天賦ノ權利ヲ全フスルヲ得ス且死シテ惡名ヲ各人ノ口碑ニノコスニ至ル萬物ノ長タル人類ニシテ尙鳥獸ニモ劣レルモノト卑視セラレ、ニ於テハ實ニ悲シム可キヲニアラスヤ假令一ト度過テ不良ノ行爲アルモ迅速其惡意ヲ翻シ天賦ノ良心ニ復スルニ於テハ一ト度被リタル所

ノ悪名ハ自然ニ消滅スルモノナリ
 看ヨ一ト度過テ不良ノ行爲アルモ速ニ其過チヲ改メ大ニ
 善良ノ人トナリ後其德望ヲ後世ニ傳ヘシ者古昔ヨリ其例
 尠ナカラス斯レ過チ改ムルニ速カナルカ故ニ依ルモノナ
 リ
 刑罰ノ希望スル所亦是ニアリ故ニ一度罪辟ニ係リ刑ノ執
 行ヲ受ケシ者過チ改メ天賦ノ良心ニ復シ其業ヲ勵ミ良民
 ト伍ヲ同フスルニ至レハ實ニ刑罰ニ企望スル所ノ良結果
 ナ得タルモノト云フ可キナリ

第三章 刑ヲ適用スルノ方法

刑法各條ニ長短ノ期多寡數ヲ定メ之カ範圍ヲ設クル者實
 ニ其犯罪ノ所爲ニ適スル科罰ヲ行ハントスルニ必要ナル
 モノナリ

全体ヲ論スレハ長短ノ期ヲ豫定スルハ尙其犯情ニ適應ス
 ルヲ得サル者ナキヲ保シ難シ故ニ若シ裁判官ナシテ神聖
 ナラシムルニ於テハ刑罰ノ範圍ヲ指定セス其犯罪ノ時々
 之ニ適應スルノ刑ヲ科スレハ權衡宜シキヲ得テ且懲戒ニ
 適スル科罰ヲ行フヲ得ルニ至ル可シ何トナレハ其犯罪ノ
 原由千差万別ニシテ其情狀及其犯者ノ身位強弱富貧等實
 ニ豫メ定ム可カラサルモノナレハナリ然レ裁判官ト雖モ

神聖ニアラサル已上ハ愛憎偏頗ノ情ナキヲ保シ難シ若シ此弊アツテ其所置專横私曲ニ涉ルキハ却テ裁判ノ公平ヲ毀テ法律ノ信用ヲ失フノ恐レアリ是ヲ以テ立法者ハ豫メ是ヲ罰ス可キ期限ノ尺度ヲ定メ制限スルニ長短多寡ノ範圍ヲ示ス故ニ其情狀ノ輕重ニ依テ之ニ科スルニ長短多寡ヲ斟酌シ其尺度ヲ定ムルハ裁判官ニ於テ專ラ審究ス可キヲニシテ要スルニ犯罪ノ原由及ヒ社會公衆ノ危險心ヲ生スルノ厚薄ヲ察シ又犯人身體ノ強弱犯人財産ノ多寡ヲ討究シ之ニ相當ノ刑ヲ適施スルハ獨リ裁判官ノ權内ニ任シ最モ微妙ナルモノトス

例ヘハ犯人身位上級ニ在テ寒暑ノ勞ヲ採ラサルモノハ之ヲ禁錮ニ處スル其痛苦最モ多ク常ニ寒暑ヲ犯シテ賤業ヲ營ム者ハ假令之ヲ禁錮ニ處スルモ其痛苦稍輕シ然ルニ身位上級ニアルモノニ罰金ヲ科スル假令多額ヲ科スルモ其困苦甚タ少シト雖モ貧人ニ科スル所ノ罰金ハ其寡數ヲ以テスルモ富人ノ多數ニ優ルノ困苦ヲ爲ス故ニ宜シク犯人身位ノ如何ヲ察シ又其財産ノ有無ヲ推究シ又其犯人ノ強弱ヲ視察シ其犯罪ノ原由方法等ヲ審究シ以テ宜シク其懲戒ニ適スル尺度ヲ定メサルヘカラス尙其犯狀實ニ原諒スベクシテ長短多寡ノ範圍ニ於テ之ヲ罰スルモ尙重キニ過

クルノ恐アル者ハ之ヲ酌量シテ減等ヲ與フルトヲ得ルモ
ノトス

第四章 假出獄ノ理由

刑法中假出獄ノ制ヲ設ケ第五十三條以下ニ之ヲ掲ク即其
明文ニモ掲クル如ク犯人悔悟遷善ノ情アル時ハ刑期四分
ノ三ヲ經過スル時ハ行政上假出獄ヲ許ストヲ得ルト是實
ニ犯人ヲシテ天賦ノ良心ニ回復セシムルニ獎勵シタル善
美ノ法ナリ故ニ能ク此法ヲ設クルノ理由ヲ明ラカニセサ
ルヘカラス

已ニ第三章ニ於テ述フルカ如ク刑罰ヲ行フ所以ノモノハ

社會ノ害ヲ除クニアリト雖モ其目的ノ結果ハ犯人ヲシテ
過悔本心ニ復サシムルニアリ故ニ其犯罪ハ己レノ本心ニ
背キ一時ノ過リヨリ成立スル所ナルヲ以テ之ヲ懲戒スル
適當ノ刑ヲ科シ司獄官吏能ク犯人ヲ遇スルニ過悔遷善ノ
意ヲ以テスル時ハ真心悔悟スルヤ必セリ
假出獄ハ能ク悔過本心ニ復スルヲニ獎勵スル大ナル利益
アリ例ヘハ人々天賦ノ自由ヲ得タキハ自然ノ道理ナリ故
ニ能ク獄中ニ在テ謹慎シ就役ノ時ニ獎勵シ遵々トシテ司
獄者ノ命ヲ奉スルニ於テハ假出獄ノ恩典アリ故ニ獄中常
ニ靜謐ニシテ品行正格ナリ獄中靜謐品行慎謹ナルニ於テ

ハ自然瞑々ノ中ニ既往ノ所爲ハ一時ノ過リヨリ出テタル
 一ヲ悟リ本心ニ復スルノ情ヲ感發スルモノナリ若シ之ニ
 反シ獄内亂雜ニシテ自儘ニ惡業ノ方法ヲ語り若クハ放歌
 慢言等ヲ爲シ謹慎ノ情ヲキモ之ヲ放任スルニ於テハ良心
 ニ復スヘキモノモ爲メニ惡意ヲ翻變スルノ道ヲ遮斷シ恰
 モ清水モ濁水ノ爲メニハ遂ニ和セラル、ト一般ナリ故ニ
 假出獄ノ恩典ヲ得ンカ爲メ知ラス識ラス謹慎スルノ情ヲ
 發シ瞑々ノ中ニ過悔善良ノ意ヲ發スルモノトス又一旦犯
 罪ノ爲メ入獄シタル者ハ其刑期ヲ終ルモ社會ノ人ハ此者
 ニ對シ危險ノ人ナリトスルノ情ハ免カレサルモノナリ故

ニ假令前非ヲ悟リ本心ニ復スルモ出獄ノ後親族故舊ト雖
 凡之ヲ疎ンシ隣里鄉黨皆此人ヲ忌避スルノ念ヲ生シ自然
 ニ交際ヲ絶ツノ姿ニ陥リ夫レカ爲メ營ムヘキ事業ヲク困
 難ニ迫リ再ヒ罪辟ニ陷阱スルモノナシトセス故ニ假出獄
 ノ制ヲ設ケ實ニ前非ヲ悟リ本心ニ復シ慎謹ノ情著シキモ
 ノハ刑期四分ノ三禁錮四年ヲ經過シタル時ハ殘ル四分ノ
 一ハ假ニ獄ヲ出スヲ許シ此假出獄中ハ其身獄中ニ在ル
 ト同シク全部ノ自由ヲ與ヘス只身體ノ自由ヲ得セシムル
 ニ止マレリ其假出獄ノ恩典ヲ蒙リタル者ハ其殘期四年例ハ
 禁錮者ハ一中ハ自宅ニ在テ謹慎セサルヲ得ス

此殘期中ハ恰モ再ヒ社會ノ人ト交際ヲ爲サントスル見習
 ノ時間ト一般ナリ此殘期中謹慎ナルニ於テハ此期ノ終ル
 ノ時間至リ社會ノ人々モ其假出獄者ノ過悔遷善少シモ危
 懼スル所ナシト見認ムルニ至ルヘシ故ニ殘期ノ終リタル
 時ハ親屬故舊隣友等ハ假出獄者ノ速ニ其過ヲ改メ本心ニ
 復シタルヲ贊シ厚ク交際ヲ爲スニ至ラン
 立法者ノ要意周密ニシテ一朝ノ過チヨリ罪辟ニ陥リタル
 者ヲ善良ニ復サシメ天賦ノ自由ヲ全フセシメ惡名ヲ後世
 ニ傳ヘ且其ノ子孫ヲシテ恥辱ヲ被ラシムルヲナカラシメ
 ントス如斯世ノ一旦罪辟ニ陥リタル者豈ニ速ニ前非ヲ悔

悟セサルヲ得ンヤ

斯ク假出獄ノ制アツテ刑期四分ノ三ヲ經過セサルモ實ニ
 良心ニ復シタルノ情狀顯然タルモノハ其刑期ノ經過ニ拘
 ハラス其罪ヲ減免スルノ方法アリ他日治罪法ノ大意ヲ説
 明スルニ當リ赦典ノ部ニ於テ論述スヘシ

第五章 公訴及刑ノ期滿免除ノ區別及理由

刑事期滿免除ニ二ツアリ一ヲ公訴期滿免除トシ一ヲ刑ノ
 期滿免除トス綜テ期滿免除ト稱スルモノハ法律ニ定メタ
 ル治罪法第十一條刑法第五十八條已下ニ掲ク期限ヲ經過スルニ依リ其公訴ヲ
 免レ又ハ其刑ノ執行ヲ免ル、ヲ云フ

公訴ノ期滿免除トハ重罪ニ當レル罪ヲ犯シタル者十年間
 輕罪ノ刑ニ處スヘキ罪ヲ犯シタル者三年違警罪ヲ以テ罰
 スヘキ犯罪アル者六ヶ月捕ニ就カサル時ハ法律上期滿免
 除ヲ與ヘ公訴ノ權ヲ消滅セシムルモノナリ犯罪發覺ニヨ
 アラササルモノトス何ヲ以テ此期限ヲ經過シタル犯人ニ對
 シ刑ヲ科セント求ムルヲ得サルヤ曰其犯罪アリシト証
 スル物件等皆歲月ヲ經ルニ從テ湮滅スルモノナリ又其犯
 罪アリト之ヲ証ス可キ人々モ歲月ヲ經ルニ從テ死失轉居
 若シクハ其事實ノ記憶ヲ遺忘セルモノナリ如此證據ハ湮
 滅シ証人ハ離散若クハ其事實ヲ遺忘シタル事件ニ付テ罪

ヲ斷スル時ハ稍モスレハ冤枉ニ陥リ易シ故ニ斯ク其確實
 ナ証スヘキモノ薄弱ナルニモ拘ハラズ其罪ヲ彈告シ無辜
 ナ冤枉ニ陥ラシメンヨリ寧ロ之ヲ不問ニ置クニ如カサル
 所以ナリ

又其所爲ノ輕重ニ從テ其年限ニ長短アルモノハ社會各人
 ハ其被害ノ輕重ニ從テ記憶ニ長短アル者ナレハナリ例ヘ
 ハ斬殺強盜放火ノ如キハ人々數年ヲ經ルモ能ク記憶スル
 所ナルモ竊盜詐欺等ノ被害ニ至テハ各人遺忘スル自然ニ
 早シ違警罪ノ如キハ又最モ世人ハ意ト爲スヲ少ナシト云
 モ可ナリ是世人遺忘ノ長短ニ從テ又期滿免除ノ期限ニ差

異アル所以ナリ

先哲格言アリ期滿免除ハ人類ノ保護法ナリト此言ヤ要スルニ犯者ヲシテ改良ノ意ヲ發スルノ道ヲ遮斷スルヲナク早ク過ヲ改メシムルニ在リ何トナレハ若シ期滿免除ノ制ナカラシムル時ハ一ト度過テ刑法ニ觸ル、時ハ生涯何時發覺スルモ刑ヲ科セラレ、モノト爲シ故ニ過改本心ニ復スルノ情ヲ發スルモ遂ニ謹慎スルヲナカルヘシ何トナレハ畢生間到底免カル、道ナキニ於テハ寧ロ惡意ヲ逞フスルニ若カストスルノ念慮ヲ生スルモノナレハナリ故ニ一ト度過テ本心ニ違ヒ罪トナルヘキ行爲アルモ實ニ其非ヲ

悔ヒ謹慎シテ社會公衆ニ對スルニ信義ヲ厚フシ以テ世人危懼ノ念ヲ生セシムルヲナク如此シテ數歳ヲ經過シ遂ニ法律ニ定メタル期限ヲ經盡スルハ法律上此人ヲシテ善良ニ復セシ者ト確認シ敢テ之カ罪ヲ論スルヲナシ又一時不良ノ行爲アル人モ此年限ヲ經盡スルニ至ル迄再ヒ惡業ヲ爲サスシテ遂ニ其犯罪發覺セサルカ如キハ實ニ善良ニ復シタルヤ明ラカナリ斯ク善良ニ復シ社會ヲ傷害スルヲナキニ於テハ刑ヲ行ハスシテ刑罰ニ企望スル所ノ目的ハ既ニ達シタルモノナリ

已上述ル所ハ公訴ノ期滿免除ヲ云フ已下刑ノ期滿免除ヲ

述ン

刑ノ期滿免除ハ公訴期滿免除ト異ナリ既ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シテ數年間捕ニ就カサル者若クハ犯罪ノ証據充分ナルヲ以テ被害人欠席ノ儘刑ノ言渡ヲ受ケ數年間捕ニ就カサル者ニ對シ執行スルモノナリ

如斯其証據充分ナルヲ以テ刑ノ言渡ヲ受タルモノナルニ由リ假令數年ヲ經ルモ公訴期滿免除ノ如ク証據ノ湮滅スルヲナシ故ニ其期限ノ如キモ公訴期滿免除ニ比スレハ其年限大ニ長キモノトス

何ヲ以テ刑ノ期滿免除ヲ與フルヤ曰ク法律ニ於テハ斯ク

長キ時間ヲ經過スルニ於テハ社會其者ヲシテ危險ナリトスル念慮ハ既ニ消散シタルモノト見認ムルヲ以テ此年限ヲ經過シタル者ニ對シ刑ヲ執行スルヲナシ且如此長期ノ年限ヲ經ルモ尙再ヒ捕縛ヲ受ケサルモノハ本心ノ善意ニ復シタルモノト推測スルヲ得ルナリ擅ニ社會ヲ橫行スルニ於テハ必スヤ捕ニ就カサルノ理ナケレハナリ

看ヨ社會ニ於テ其人ヲシテ危險ナリトスルノ念慮ヲ消散シタル時ハ之ヲ刑スルニ臨ミ愍憐ノ心ヲ生スルモノナリ

例ヘハ數年前ニ犯罪在テ刑ニ處セラレ逃走シタル者ヲ捕拿シテ之ヲ刑セントスル時ハ社會公衆ハ必ラス言ハン今

日ニ至ル數年間捕ニ就カサルモノハ必ス善良ノ人ト爲リ
 タルモノナラン然ルニ之ヲシテ尙刑ヲ執行スルハ愍然ナ
 ルトニ非ラスヤト是社會公衆ニ於テハ更ニ刑ヲ執行セサ
 ルモ刑法ニ於テ望ム所ノ社會ノ害ヲ除キ及ヒ犯人ヲシテ
 過悔遷善ノ情ヲ感發セシムルノ目的ハ己ニ達シタルモノ
 ナレハ刑ノ期滿免除ヲ與ヘ其執行ヲ廢止スルハ實ニ當然
 ノ理ナリ

實際ヨリ推測スレハ期滿免除ノ恩典ヲ受クル者ハ刑ノ執
 行ヲ受ケタルニ等シキ困苦ヲ爲シタルモノトスルモ敢テ
 空言ニアラス何トナレハ法律ニ定メタル時間心中ニ於テ

少シモ安ンスル所ナキハ免レサル所ニシテ且刑ノ執行中
 逃走シタル者ノ如キハ親族故舊ト交通スルヲ得ズ且自
 己ノ郷里ヘ住スルヲ得スシテ他邦ニ伏匿スルニ非ラサ
 レハ決シテ捕縛ヲ免カル、トヲ得サレハナリ
 公訴期滿免除ト刑ノ期滿免除トヲ設クルノ主意及區別ハ
 既ニ前ニ記列スル所ノ如シ而シテ公訴期滿免除ノ爲メ公
 訴消滅シタルモノハ少シモ犯罪ノ痕跡ナキモノトス故ニ
 再ヒ犯罪ノ行爲アルモ初犯ヲ以テ論スルナリ而シテ刑ノ
 期滿免除ニ至テハ犯罪ノ痕跡依然トシテ存ス故ニ再ヒ犯
 罪アルキハ之ヲ加重シテ罰セラレ、ナリ

附加刑中公權剝奪及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得サル所以ノモノハ是此等ノ附加刑ハ本刑ノ執行終リタル時ヨリ始メテ執行ヲ始ムルモノナレハ假令純然ト執行ヲ畢リタルモノモ之ヲ免カル、ヲ得ス然ルニ僥倖ニモ本刑ノ期滿免除ヲ受ケタル者ヲシテ監視及公權剝奪迄ヲ免カル、ヲ得ルモノトスルキハ其執行ヲ遂ケタル犯人ト大ニ權衡宜シキヲ得サルノ恐レアレハナリ

第六章 復權ノ原由

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪スルヲハ載テ刑法ニアリ故ニ苟クモ重罪ニ處セラ

レタルモノハ終身公權ヲ行フヲ得サルハ刑法ノ原則ナリ斯ク公權ヲ行フヲ禁スル所以ノモノハ是等惡業最モ重ク社會ヲ傷害スル大ナルモノニ貴重ノ公權ヲ與ヘ置クニ於テハ貴重ノ公權ヲ濫用シ再ヒ社會ヲ傷害スルノ恐レアリ故ニ法章之ヲ行フヲ禁シ此者ノ心術ヲ束縛スルニ在リ

斯ク終身公權ヲ行フヲ得サルノ原則ヲ示スト雖モ濫律ニ於テハ元ヨリ改良ヲ希望スルヲ以テ之カ變則ヲ示シ眞心善良ニ復サシメント獎勵スル爲メ其善良ニ復シ以テ再度社會ヲ傷害スルノ恐レナキニ於テハ復權ヲ許シ以テ天

賦ニ得タル權利ヲ全フスルヲ得セシム
 既ニ第二章ニ於テ詳説セシカ如ク元來刑法ノ目的ハ犯者
 ナ苦シムルカ爲メ束縛スルニ非スシテ犯人ノ過改良善ニ
 復スルヲ希望スルモノ其一ニアルナリ故ニ假令重罪ニ
 該ルヘキ所爲アツテ重キ刑罰ヲ受ケタリト雖モ過ヲ改メ
 善良ノ人トナリ社會ヲ傷害スルヲナキニ於テハ即良民ナ
 リ然ラハ即其良民ト確認スルヲ得ル者ナシテ豈公權ヲ
 行フヲ禁止スルノ理アラシヤ是レ復權ヲ許スヲ得ル
 所以ナリ
 復權ヲ得ント欲スル者ハ之ヲ出願スルヲ得ルノ年限及

手續ハ治罪法第四百七十條已下ニ掲ケ以テ之ヲ示セリ而
 シテ斯ク法章明文アルヲ以テ自己ノ行ヒテ不顧シテ叨リ
 ニ願面ヲ呈出スルモ到底得ヘキモノニアラス故ニ能ク行
 ナ正フシ常業ヲ勵ミ人ト交際ヲ爲ス能ク信義ヲ失ハス苟
 クモ人ノ害トナルヘキヲハ微事モ之レヲ行ハス社會公益
 トナルヘキヲハ瑣事モ之ヲ行ヒ隣里郷黨見認メテ其改心
 シタルヲ賞賛シ公衆危懼心ヲ全ク去ルニ非ラサレハ之
 レカ回復ヲ望ムモ益ナシ法律ニ於テ犯人ヲシテ良心ニ復
 サシメント希望スル已テニ如此苟モ萬物ノ長タル人類タ
 ルモノ一ト度刑典ニ觸ル、モ本心ニ復シ既往ハ祖先ノ祭

事ヲ全フシ將來ハ子孫ノ繁榮ヲ慮ラサルヲ得ンヤ

第七章 不論罪其他綜テ刑ヲ減輕スルノ理由

凡ソ罪トシ罰スヘキ所爲ニ於テハ三箇ノ元素ヲ合有スル
 一ヲ要ス第一意念第二自由第三識別是ナリ若シ已上三箇
 ノ一ヲ欠キタル所爲ニ於テハ法律上罪トシテ論セサルナ
 リ

第一意念ヲ欠キタル所爲トハ何ソヤ例ヘハ他人ノ家ニ至
 リ歸途忽卒ノ際他人ノ所有ニ屬スル貴重ノ物品ト己レノ
 粗惡ノ品ト錯誤シ之ヲ持歸リタルカ如キ或ハ他人ノ物品
 ヲ過テ毀損シ又ハ他人ヲ殺傷スルノ用ニ供スルヲ知ラ

スシテ刀鎗ヲ貸與シタルカ如キ場合ニシテ其現像ヲ見レ
 ハ窃取毀棄若クハ殺傷ヲ幫助シタル罪ト同一ナリト雖モ
 其成立スル元素ヲ推究スレハ之ヲ奪取シテ己レヲ富サン
 トシ又之ヲ毀テ自己ノ意ヲ慰セントスルノ惡意アルニ非
 ラス故ニ再ヒ他人ニ此害ヲ加ヘントスルノ疑懼ナキヲ以
 テ社會危險ノ念慮ヲ生スルヲナシ然レモ無意ノ所行ト雖
 モ其害最モ大ナルモノニシテ後來怠忽ヲカラシム爲メ之カ
 警戒ヲ加ヘサルヲ得サルモノハ刑典上特ニ之ヲ明記シタ
 リ過失殺傷若クハ失火等ノ類是ナリ然レモ斯レ等シク無
 意ノ犯罪ナリト雖モ法律上變例ニシテ要スルニ其害大ナ

ルヲ以テ后来ヲ戒ムルニ止ルノミ
 如斯法律ニ於テハ意念ナキノ所行ハ之ヲ罰セスト雖モ已
 レノ遵奉ス可キ法典ヲ知ラスシテ法ニ明示スル所ニ觸レ
 無意ヲ口實トシテ刑罰ヲ免レントスルヲ得ザルナリ例へ
 ハ新聞論說過激ニ涉リ條例ニ觸レ演說壇上ニ於テ言語過
 激遂ニ施政ヲ妨害シ若クハ官吏ヲ侮辱スルニ涉レル者ノ
 如キ國事ヲ患フルノ爲メ知ラス識ラス過激ニ涉リタルモ
 ノニシテ無意ヨリ出タル所ノ過失ナリトスルカ如キハ決
 シテ其科罰ヲ免カル、₁ヲ得ス何トナレハ條例既ニ之ヲ
 明示セルヲ以テ勿論之ヲ遵奉セサルヲ得ス然ルニ之ニ觸

ル、カ如キ法律上無意犯ト爲ス₁ヲ得ス

刑法第七十七條ニ明記セル罪トナル可キ事實ヲ知ラスシ
 テ犯シタル者ハ其罪ヲ論セストアル一句ヲ誤テ予ハ罪ト
 ナル可キ₁ヲ知テ行フタルモノニ非ラス知ラスシテ言論
 過激ニ涉リタルモノナリト陳スルナキヲ保シ難シ故ニ聊
 此所ニ之ヲ解説セン

斯レ法章明記スル所ヲ知ラスシテ犯シタルモノニ非ラス
 シテ其事カ罪トナルヲ知ラサルニ在リ例へハ脱獄逃走人
 タルヲ隱蔽シテ寄宿ヲ求メタルヲ以テ之ヲ止宿セシメタ
 ル如キ又窃盜ヲ行ヒタル者其贓品タル₁ヲ隱蔽シタルヲ

以テ少シモ盜品タルヲ知ラスシテ之ヲ買得シタルノ類ニシテ要スルニ逃亡人若クハ贓品ナルニ於テハ法ノ禁スル所ナルハ之ヲ知ルモ其人カ逃走人タルヲ若クハ盜者ナルヲ知ラサルニ在リ

第二自由ヲ欠キタルノ所爲トハ何ソヤ曰ク之ヲ行ハント欲スレハ之ヲ行ヒ之ヲ止メント欲スレハ之ヲ止ムルヲ得ル之ヲ自由ト云

或場合ニ於テ之ヲ停止セントスルモ尙得可カラサルヲアリ而シテ此停止スルヲ得サル場合ニ三種ノ別アリ曰天災ノ爲メニ原由スルト亦ハ意外ノ變ニ原由スルト若クハ人

爲ニ原由スルト是ナリ

天災ノ爲メニ原由スルモノトハ例ヘハ洪水ノ災游泳シテ淵ニ達セントスルニ際シ沈溺者手足ニ取付キ游泳スルヲ得ス此取スガル者ヲ救ハント欲スレハ共ニ水底ニ沈溺シ性命ヲ全フスルヲ得ス於是其スガル者ヲ振離タサルヲ得ス若シ振離タントスルモ強テ取付キアルニ於テハ之カ手ヲ絶チ若クハ之ヲ殺シテ以テ一身ヲ全フセサルヲ得ス人ヲ殺シ若クハ傷スルハ最モ惡事タルハ言ヲ竣タスト雖

此前ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ停止セントスルモ得可カラ

ス故ニ之ヲ傷シ若シクハ之ヲ殺スモ法律上犯罪者トシテ

論スルヲ得ス

又意外ノ變ヨリ避ク可カラサルノ危難ニ遇ヒ不得止罪ヲ犯スノ所爲ヲ行ハサレハ災害ヲ免レサル場合アリ例ヘハ一人ニ非ラサレハ通行スルヲ得サルカ如キ細道ヲ歩スルニ際シ離レ牛馬ノ狂奔シテ來ルニ逢フカ如キハ其難ヲ避ケントスルニ他人ノ門戸牆壁ヲ毀タサレハ身ヲ容ル、ノ地ナキ時ハ之ヲ毀テ以テ避ケサルヲ得ス之ヲ毀タサラント欲スレハ自己ノ身体ヲ全フスルヲ得ス
 又人爲ニ原由スルトハ例ヘハ内亂ノ際四隣皆蜂起シ汝若シ我黨ニ組セサレハ汝ノ妻孥ヲ合セテ之ヲ殺戮セント迫

レルカ如キ何等ノ手段ヲ施スモ到底免カル、ヲ得サル場合ニシテ不得止内亂ニ同意シタルノ類是ナリ
 元來天災人爲ヲ論セス是等ノ事項ハ皆意外ノ變災ナリト雖モ之ヲ三箇ニ區別シタル者ハ只了解ノ易キヲ欲スルノ
 ミ
 又正當防禦ノ爲メ犯罪ノ所爲ヲ行フカ如キモ人爲ノ原由ヨリシテ自由ヲ欠クノ行爲ナリトス
 定法ニ於テハ人情實ニ行ヒ得可カラサルヲ欲シテ之ヲ明記スルヲナキヲ以テ自己ノ身體ヲ捨テ以テ人ヲ救フカ如キハ神聖ニ非ラサレハ能ク行フヲ得サルモノトシ自

由チ欠クノ所爲ハ之ヲ罪トシテ論セサルナリ
 然レモ斯レ實ニ不得止ノ場合ニ限レルモノニシテ各人只
 法律ノ不問ニ付スル所ニ拘泥シ容易ニ行フ可キモノニ非
 ラサルハ今更予ノ喋々スルヲ要セサルナリ
 此項ヲ講スルニ及テ往々下文ノ如キ質問ヲ爲スモノアリ
 曰若シ天災ノ爲メ又ハ人爲ニ依リ避ク可カラサル危難ニ
 逢ヒ一人ヲ殺サ、レハ一身ヲ全フスルヲ得サル場合ニ
 於テ其一人ハ尊族ナル時ハ如何尙尊族ヲ殺スモ罪トセサ
 ルヤト是實ニ啻ニ定法ノミニ拘泥シ道義ノ如何ヲ知ラサ
 ルモノ、問ト云フ可シ法章ニ於テハ自己ノ性命ヲ全フス

ル爲メ不得止之ヲ行ヒタル所爲ニ於テハ他人ト尊族トノ
 論ナシト雖モ道義ノ存スルアリ豈自己ノ身ヲ全フセンカ
 爲メ尊族ヲ害シテ可ナランヤ法章尙殺傷ニ係ル特別ノ不
 論罪ハ父母ニ對スルノ場合ハ適用セサル旨ヲ明示セリ
 危キヲ冒シテ溺者ヲ水中ヨリ救ヒ一身ヲ顧ミス火中ニ彷徨
 スル者ヲ助クルカ如キハ實ニ最良ノ行爲ニシテ之ヲ神
 聖ニ等シキ所爲ト云フモ可ナリ而シテ是等ノ人ハ假令法
 典別段之ヲ賞スルノ擧ナシト雖モ各人其德ヲ賞賛スルニ
 至ラン是レ無形ノ恩賞ナリ
 看ヨ日本數百年前ニ在テ平清盛其叔父平忠正ヲ殺シ源義

朝其父源爲義ヲ殺ス是皆恰モ人爲ノ脅迫ヨリ不得已ニ出
ルモノト云フモ可ナリ果シテ然ラハ法章之カ所爲ハ論セ
サルノ理ハ敢テ今日ト差異アルヲナシ然ルニ數百ノ星霜
ヲ經ル今ニ至ルモ誰カ其所爲ヲ贊美スルモノアラシヤ認
テ以テ惡行トナスモノ他ナシ定法不問ニ付スモ道義ノ存
スルアルヲ以テナリ斯レ法章ニ於テ之ヲ罰セサルモ道義
ニ於テ爲ス可ラサルノ所爲ハ各人以テ厭忌スル所著シキ
ノ証トス

第三識別トハ何ソヤ曰其之ヲ行フニ付利害得失ノ識別ヲ
知ラサル者ヲ云フ故ニ果シテ之カ得失ヲ知ルノ感覺ナキ

者ノ爲シタル事ハ假令犯罪ノ所爲タリト雖モ法典其罪ヲ
論セサルモノトス例ヘハ拾貳歳ニ滿タサル兒童消火夫ノ
馳行スルヲ嘉シテ以テ放火ヲ爲スカ如キハ只其消火夫ノ
駢馳スルヲ樂ム爲メニシテ人家ニ放火スレハ多ク家財ヲ
蕩盡シ大害トナル可キヲハ知ラサルナリ且又放火ノ罪ニ
依テ刑ニ處セラル可キヲモ決シテ知ルノ識能ナキモノ
トス又知覺精神ヲ喪失シタル發狂人往來人ヲ毆打スルノ
類ノ如キ是ナリ

元來犯罪ノ目的ノ如キ人ヲ害シ自己ヲ慰スルカ若クハ人
ノ物ヲ以テ我ヲ富マシメ不正ノ快樂ヲ欲スル等ノ類ニシ

テ之ヲ戒メサレハ必ラス後來再度之ヲ行ヒ大ニ公安ヲ害スルノ恐レアルヲ以テ之ヲ罰スルニアリ然ルニ其利害得失ノ辨別ナクシテ行フタル所爲ノ如キハ是等ノ惡念ヲ含有スルヲナシ斯レ法典有罪トシテ論セサル所以ナリ然レモ辨別ナキモノ、所爲ニ於ル却テ知覺ヲ備ヘタル者ヨリ尙危懼ス可キ多キカ如シ何トナレハ知覺ヲ備ヘタル者ノ所爲ハ其之ヲ行フノ原由怨恨復讐ノ意若クハ不正ノ富ヲ欲スルノ念等ヨリ出ルヲ以テ其害ヲ加フ可キ者ヲ撰ミ以テ之ヲ行フト雖モ精神錯亂者ノ如キハ其誰彼ヲ撰ムヲナシ是社會公衆ノ危強稍大ナリトス故ニ是カ身体ヲ拘

束スルノ方法ハ宜シク設ケサルヘカラス故ニ幼者ノ犯罪ハ尙懲治場へ入監スルノ方法アリ又狂亂者ノ如キハ行政處分ヲ以テ之カ横行ヲ豫防スルニ任シ法律上之ヲ掲ケサルナリ

前述ルカ如ク法章ニ於テ罪ト爲ス可キモノハ三個ノ元素俱備スルニ非ラサレハ之ヲ論シ刑ヲ科スルヲ得サルモノトス

法律ニ於テ其罪ヲ論セサルノ所爲ハ既ニ前ニ述ルカ如シ而シテ尙不論罪トス可キ性質ノ幾分ヲ有スルモノニシテ全ク罪ヲ論スルヲ得サルモノヲ宥恕輕減ト云

法律ニ於テ宥恕ス可キモノ其例ヲ舉クレハ廿歳以下ノ者
 犯罪ノ所爲アル場合又ハ他人ヨリ暴行ヲ受ケ怒リニ乘シ
 テ人ヲ殺傷シ若クハ姦夫姦婦ヲ姦所ニ於テ殺死シタル場
 合ノ如キ皆幾分ノ別辨ヲ失フニ依レルモノトス何トナレ
 ハ廿歳以下ノ者ノ如キハ未タ充分ノ識別ヲ具備セサルモ
 ノナルヲ以テ之ヲ丁年者ト均シク論スルヲ得ス
 又人ヨリ暴行ヲ受ケ怒リニ乘シテ人ヲ殺死シ若クハ姦夫
 姦婦ヲ姦所ニ於テ殺死スルカ如キハ其憤怒ニ堪ヘ難キノ
 情勢ヨリ熱血ノ餘リ一時精神ヲ亂セルモノニシテ是非ノ
 識別ヲ失フニ至ルモノトス故ニ法律上幾分ノ宥恕ヲ與ヘ

以テ其刑ヲ輕減スル所以ナリ
 年齢ノ多寡ニ依テ宥恕減輕ノ尺度ヲ定ムルハ豫メ見易キ
 所ナルヲ以テ之ヲ總則ニ掲クルト雖モ挑發熱血ノ情ヨリ
 精神錯亂シテ人ヲ殺傷スルカ如キハ其場合大ニ緩急ノ別
 アルモノナリ故ニ其事實ニ就テ能ク審案スルニ非ラサレ
 ハ以テ減輕ノ尺度ヲ定ムルヲ得ス故ニ之ヲ總則ニ掲ケ
 ス特別ノ宥恕トシテ之ヲ掲クル所以ナリ
 以上説明スル所ハ不論罪並宥恕ノ場合ヲ云フ
 此不論罪又ハ宥恕減輕ノ外或情狀ニ依リ刑ヲ輕減スルモ
 ノアリ曰酌量曰自首曰從犯未遂犯是ナリ又此他尙特別ニ

減等ノ情狀アルモノハ各條ニ之ヲ示セリ
 酌量減等ハ如何ナル時ニ適用ス可キモノナルヤ曰ク酌量
 ナルモノハ法律ニ定メタル長短多寡ノ範圍中其短期寡數
 ナ以テ之ヲ科スルモ尙稍酷ニ失スルノ恐レアル時裁判官
 ニ於テ輕減シテ之ヲ罰スルヲ酌量輕減ト云フ
 酌量輕減ヲ用フ可キ所犯情狀原諒ス可キ者トハ如何ナル
 ヲ云ヤノ問題ニ至ラハ其犯情千差万別ニシテ一ニ之ヲ
 定ムルヲ得ス例ヘハ自己遊蕩ノ資ト爲サンカ爲メ人ノ
 財ヲ奪フモノアリ又父兄ノ病痾ヲ醫セントスルモ貧困其
 資ナク不得止シテ他人ノ財ヲ盜スルアリ又人ノ所有品ヲ

奪ハンカ爲メ其人ヲ殺スモノアリ人ヨリ其害ヲ與ヘラレ
 タルヲ怨恨以テ人ヲ殺ス者アリ己レヨリ不正ノ行爲ヲ爲
 シ争鬪シテ人ヲ殺スモアリ人ヨリ不正ノ事ヲ仕掛ケラレ
 怒リニ乘シテ其人ヲ殺スアリ總テ如此場合ニ於テハ自己
 遊蕩ノ資トシ若クハ人ノ所有品ヲ奪ハンカ爲メ又ハ己レ
 ヨリ不正ノ行爲ヲ爲シタルカ爲メ争鬪ヲ爲シタルニ依ル
 モノハ皆敢テ原諒ス可キノ情ナシ其父兄ノ疾病ヲ醫スル
 ノ資トセンカ爲メ若クハ人ヨリ甚シキ害ヲ與ヘラレ又ハ
 人ヨリ不正ノ事ヲ仕掛ケラレタルヲ以テ怒リニ堪ヘ難キ
 ヨリ爲シタル場合ノ如キハ其情狀原諒ス可キモノアリト

ス何トナレハ其原因父母ヲ救ハントスル一念ヨリ起リ一
 ハ人不正ノ行爲ヲ己レニ加ヘタルヨリ挑撥ノ情不得止之
 ナ行ヒシモノナレハナリ

或人説ヲ爲シテ曰其被害ノ細微ナル時ハ又酌量ヲ與ヘテ
 可ナリト余ハ大ニ不可ナルヲ覺ユ何トナレハ刑ノ長短多
 寡ノ範圍内ニ於テ之ヲ其犯情及ヒ被害ノ多寡等ヲ考ヘ斟
 酌シテ其宜シキニ適スル科罰ヲ行フハ勿論ナリト雖モ法
 章掲クル所ノ酌量減等ヲシテ被害寡少ノ時ニ通用スルノ
 理ナキナリ何トナレハ法章記セルカ如ク所犯情狀ヲ原諒
 ス可キモノアレハナリ例ヘハ甲者門戸牆壁ヲ踰越シ夜中

他人ノ家ニ入テ金五拾錢ヲ盜ミタルモノアラン而シテ此
 盜心ヲ生スル原由如何ヲ問ヘハ賭博ノ資ト爲サントスル
 ニ依レリ又乙者門戸ヲ踰越シ夜中他人ノ家ニ潜入シ金百
 圓ヲ盜ミタリ而シテ此盜心ノ生セシ原由ヲ尋ヌレハ主人
 商業ニ失敗シテ負債ノ爲メ日々困苦ヲ見ルニ忍ヒス一時
 ノ窮ヲ救ハントスルニ出ルモノナル時甲乙其竊盜ヲ行フ
 ノ惡業ハ一同ニシテ且之ヲ行フ方法ハ異ナルヲナシト雖
 モ其被害ノ多寡ヲ比較スレハ一ハ以テ僅ニ五拾錢ニシテ
 一ハ多額ノ百圓ヲ盜ムモノナリ此甲乙ヲ比較スレハ恰モ
 乙者ヲ以テ重シトナスカ如シト雖モ余ハ却テ甲ニ酌量ノ

情ナク乙ニ輕減ノ情アルトナ確信ス何トナレハ乙カ盜心
 ナ生セシ其情狀最モ愍諒ス可キモノアレハナリ
 以上解説スル處ハ酌量減輕ニ係ル次ニ自首減輕ノトナ論
 セン
 罪ヲ犯シ未タ其事發覺セサルニ先立テ自首シタルモノハ
 犯情ノ如何ニ拘ハラズ謀故殺ヲ除クノ外ハ概シテ一等ヲ
 減ス
 何ヲ以テ自首ニ減等ヲ與フルヤ曰ク一ト度過テ本心ニ違
 ヒ公益ヲ害シ併セテ道義ヲ破ルノ惡業アルモ忽チ前非ヲ
 悔ヒ官ニ自首スルニ於テハ稍其悔悟ノ點ヲ見ルニ足ルヘ

シ故ニ之ヲ減等スル至當ノトナリトス
 舊律ニ於テハ自首スルモノニ與フルニ全免ヲ以テス斯レ
 大ニ弊害ヲ來タスノ恐レアリ何トナレハ若之ニ全免ヲ與
 フルニ於テハ其免罪ヲ目的トシテ悔悟セシカ如ク裝飾シ
 テ自首スルニ至ル而シテ假令其自首者現ニ悔悟ノ狀形ナ
 キモ法律上全免ノ一句ヲ掲ケタル上ハ之ヲ免罪ニセサル
 ナ得ス是レ前非悔悟ヲ獎勵セントシテ却テ惡業者ナシテ
 僥免ヲ得セシムルノ弊ヲ免カレサルナリ
 於茲新法ニ於テハ決シテ全免ヲ與フルトナク只一等ヲ減
 ス是レ一等ノ輕減ヲ目的トシテ自首センヨリハ寧口逃ル

ルノ限りハ隱匿セントスルハ悔悟心ナキ者ノ情狀ナリ故ニ實ニ悔ムノ念生セサレハ自カラ捕ニ就キテ執行ヲ受ントスル者少シトスルハ明瞭ナリ

若シ實ニ悔悟心ヲ抱クヲナク減等ヲ目的トシテ自首スル者アリトセンカ假令然ルモ又一等ノ減輕ヲ與フル至當ナルノ理由アリ何トナレハ未タ其犯人誰タルヲ覺知セサル前ニ於テハ或ハ一惡業ノ爲誤認ノ推測ヨリ無辜者嫌疑ヲ受ケ囹圄ニ痛苦スルノ慮ナキヲ保シ難シ故ニ早ク捕ニ就キ社會ノ危懼ヲ除クハ大ニ利益トスル所ナリ加之若シ犯罪ノ事跡判然トシテ其犯人ヲ知ル能ハサル時ハ保安官吏

ハ之ヲ得ントスル探索ノ勞又大ナリ然ルニ犯者自カラ首出シテ捕ニ就クニ於テハ此勞ヲ省クノ利益モ又少ナシトセサルナリ

自首ニ減等ヲ與フルノ理由如此而シテ尙單ニ財產ニ對スルノ罪ヲ犯シ其財產ノ全部ヲ返還シタル者ハ二等ヲ減シ其半數以上ヲ返還シタルモノハ一等ヲ減シ通計二等三等ヲ減スルノ法アリ斯レ又實ニ至當善良ノ法ト云フ可シ看ヨ刑ノ重キヨリ寧口輕キヲ欲シ其刑期ノ長キヨリ寧口短キヲ欲スルハ人情ノ常ナリ故ニ財產ニ對スル罪ヲ犯シタルモノ悔悟心アツテ自首スル者ハ其被害者ノ損害ヲ可成

僅少ナラシメントスルハ必セリ故ニ此良心ヲ生シ其贓物
 ナ返還スル者ハ既ニ他人ノ財ヲ以テ不正ニ我ヲ富マスノ
 非ヲ悟リタルモノニシテ法律上之カ還付財産ノ多寡ニ依
 テ減輕ヲ與フルハ理ノ然ラシムル所ナリ
 以上解説スル所ノモノハ其何人タルニ論ナク宥恕酌量若
 クハ自首共ニ其事實アレハ必ラス減輕アルモノナリ而シ
 テ尙其犯人ノ身分等ニ依リ特ニ減輕ス可キモノハ各條ニ
 之ヲ明記シ以テ之ヲ適用ス茲ニ一例ヲ舉レハ刑法第百五
 十八條ノ如キ同百八十七條ノ如キハ其犯罪ノ情ヲ知テ共
 ニ之ヲ行フト雖雇ヲ受ケタル者ナルヲ以テ其目的犯罪

タルノ所爲ヲ成立セシメ以テ己レヲ利セントスルニ非ラ
 スシテ唯己レノ勞ニ酬ユル所ノ賃銀ヲ得ントスルノ一途
 ニ外ナラス故ニ之ヲ本犯ニ比スレハ其情ノ輕キヤ論ヲ竣
 タス依テ之ヲ減輕スルヲハ其本條ニ明記セルモノナリ

第八章 數罪一ノ重キニ從テ處斷スルノ理由

法律ニ於テハ數罪ヲ犯セシ者ニ對シ之ヲ併セテ刑ヲ科ス
 ルヲ欲セス故ニ數罪一時ニ發覺シタル時ハ此犯罪中最
 モ重キモノニ從テ一ヲ科スルナリ
 斯ク數罪ヲ併セテ科セサルハ實ニ至當ノヲナリ何トナレ
 ハ既ニ其所爲ヲ罰セラレ尙改心セスシテ又之ヲ行フ時ハ

前ノ科罰ニ一層重キヲ加フルハ至當ノ理ナリト雖モ未タ其所爲ヲ罰セサル時犯罪數度ニ及フ時ハ其數罪ヲ併科シ重ク罰スルハ理ニ於テ否トスル所ナリ
 看ヨ例ヘハ一人ノ子供惡戯ヲ爲ス之ヲ叱責スルヲナシ依テ惡戯數度ニ及フニ當テ始メヨリノ惡戯ヲ筭ヘ一時ニ苛酷ノ懲戒ヲ加フル時ハ人必ラス其教育ノ法宜シキヲ得サルモノト言ハン

數罪俱發一ノ重キニ從フノ理又是ニ異ナラサルナリ
 重罪ニ在テハ之ヲ比較シテ數罪ノ輕重ヲ知ルニ易シト雖モ輕罪ニ在テハ其長短多寡ノ數アルヲ以テ或ハ之ヲ比較

スルニ困難ナルカ如シ何トナレハ長期短期アリ及附加刑アルモノアリ又附加刑ナキモノアリ又附加罰金ニ多寡ノ別アリ如此一樣ナラサレハナリ

於是立法官ハ能ク所犯情狀重キモノニ從テ所斷セシムルヲ揭ケタリ故ニ例ヘハ竊盜犯ト賭博罪ト俱發セル場合ニ於テ竊盜罪ハ二月以上四年以下ノ刑ヲ適用ス可ク賭博罪ハ一月以上六月以下ノ刑ヲ適用ス可キモノナリ故ニ之ヲ比較スレハ恰モ竊盜罪ノ方重キガ如シト雖モ決シテ然ラス其竊盜罪ハ情太々輕ク短期ヲ以テ罰ス可ク却テ賭博罪ハ情重クシテ長期ヲ以テ罰ス可キモノト思量スル時ハ

一ノ賭博罪ヲ罰スルカ如キ是ナリ例ヘハ甲者乙者ノ家ニ侵入シ金拾圓ヲ窃取ス其原因如何ヲ問フニ主人ノ窮迫ヲ救成セントスルノ熱心ニ出タルヲ明瞭ニシテ且戸締リナキヲ幸ヒ忍ヒ入タル者ナリ又此甲者賭博ヲ企テ衆人ヲ招キ寄セ己カラ主トナツテ賭博ヲ行ヒ現場ニ於テ捕ニ就カントスル時大ニ抗拒ノ景狀ヲ顯シタルモ遂ニ縛ニ就キタリ此二罪ヲ比較スレハ竊盜ハ其情輕ク却テ賭博ハ其狀重シトスルノ類是ナリ

若シ數罪ヲ併科スル時ハ數年ノ禁錮懲役ヲ科セサルヲ得ス實ニ不當ノ刑ト云フ可キナリ故ニ輕罪重罪ニ在テハ數

罪發覺スルモ只一ノ重キニ從テ刑ヲ科スル所以ナリ然レモ違警罪ニ在テハ然ラス元來違警罪ノ如キハ太々輕微ノ刑ナルヲ以テ數罪併科スルモ敢テ不當ノ重刑ヲ科スルノ恐レナキ而已ナラス違警罪ノ如キハ或ハ商業上ニ關スル取締規則ノ如キハ數罪之ヲ犯シ只一ノ重キニ從フ時ハ其科料ヲ完納スルモ尙利益トナルヲナシトセス果シテ然ラハ刑ノ效用ナキニ至ルノ恐レアリ故ニ數罪併科シテ是等ノ弊害ナカラシムルアル而已

第九章 再犯其他加重

既ニ第二章ニ於テ詳述セシ如ク人タル者一ト度過テ罪辟

係ルモ速ニ其過ヲ改メ善良ニ復スル時ハ社會良民ト伍
 シ天賦ノ權利ヲ全フスルヲ得且前ノ不良ノ行爲アリシ
 ヲハ自然ニ消滅シ子孫ヲシテ耻辱ヲ與フルヲナカラシメ
 シヲ思ハサル可カラサルヲ云ヘリ然ルニ尙改心ノ良
 意ヲ感發スルヲナク又罪ヲ犯スカ如キハ其情甚タ重ク社
 會公衆畏懼ノ念慮ヲ抱ク又大ナリトス故ニ前ニ罰シタル
 刑ヨリ一層重シ故ニ宜シテ加重シテ嚴ニ之ヲ罰セサルヲ
 得ザル所以ナリ
 斯レ至當ノトス何トテハ既ニ犯罪アル者其行爲ニ適
 スルノ罰ヲ科シ以テ改良移善ナラシメント欲スルモ尙ホ

其効ヲ奏セス又再ヒ社會ヲ傷害スルカ如キハ固ヨリ頑冥
 不零ノ徒ナルヲ以テ一層重キヲ加ヘ之ヲ罰スル豈至當ナ
 ラストセンヤ

又再犯ニ非サルモ尙再犯ノ所爲ノ如ク加重シテ罰ス可キ
 モノアリ是レ子孫祖父母父母ニ對スル犯罪若クハ官吏職
 務上信認ニ背キ罪ヲ犯セルハ例ヘハ電信局ノ官吏電信ヲ
 不通ナラシメタルカ如キ若クハ免狀鑑札ヲ管掌スル官吏
 情ヲ知テ詐欺ノ願書ヲ聽許シテ鑑札ヲ下渡シタルカ如キ
 又醫師囑托ヲ受ケテ以テ詐僞ノ病疾証書ヲ作りタルカ如
 キ場合ハ皆之ヲ加重シテ罰ス

斯レ子孫タル身分ニシテ恩義ヲ遺忘シ祖父母父母ニ對シ
 是等犯罪ノ所爲アル實ニ道義ニ戾ル是ヨリ大ナルハナシ
 又官吏タル者信認ヲ受事務ヲ區處スルニ際シ其信認ニ背
 キ却テ犯罪アルカ如キハ之ヲ一般人民ニ比スレハ其情狀
 ノ重キ言ヲ待タス又醫師ノ如キモ同一ノ理ナリ又二人已
 上共ニ犯罪ヲ行フタルモノニシテ尙加重シテ罰スルモノ
 アリ強盜竊盜若クハ家宅侵入等はナリ
 斯レ數人共犯ノ章ニ於テ述ルカ如ク其犯罪ノ成功ヲ遂ケ
 易キ而已ナラス又社會危險ノ心ヲ生スル一人ノ所爲ニ比
 スレハ甚タ大ナリ是等ノ場合ニ於テハ其惡業ノ情狀最モ

重キヲ以テ宜シク之ヲ嚴ニ罰セサルヲ得サルヲ以テ一般
 ノ犯罪ヨリ加重シテ罰スル所以ナリ
 又再犯ノ場合ニ於テモ加重シテ罰スルモ前ノ刑ヨリ重ク
 セント欲スル時ハ太々重キニ失スル場合アリ是レ前ニ重
 罪ヲ犯シタルモノ再ヒ輕罪ヲ犯シタル場合是ナリ此場合
 ニ於テハ只後犯ノ刑ニ一等ヲ加ヘ罰スルニ止マルノミ又
 前ニ輕罪ノ刑ヲ以テ罰セラレタル者後重罪ニ該ル罪ヲ犯
 シタル時ノ如キハ其後犯ノ刑ニ加重セサルモ實際前刑ヨ
 リ重キヲ以テ別段加重スルヲナシ
 若シ前ニ輕罪ノ刑ノ執行中例ヘハ禁錮六月ノ囚人ニケ月

ヲ經過シタル時同囚ヲ毆殺シ懲役ニ處セラレタル時ハ其執行方如何トノ問題アリ此場合ニ於テハ前犯執行ノ殘期四ヶ月ハ後犯懲役ノ執行終リタル後ニ於テ之ヲ執行ス若前犯禁錮六ヶ月執行中三ヶ月ヲ經過シタル時人ヲ教唆ノ自殺セシメタル罪ヲ犯シ重禁錮三年ノ刑ニ處セラレタル時ハ先輕禁錮ノ刑ノ執行ヲ停止シテ重禁錮ノ執行ヲ爲シ終テ輕禁錮ノ殘期ヲ執行スルモノトス若前後共ニ輕禁錮若クハ重禁錮等ノ如キ同種類ノ刑ナル時ハ別段執行ニ前後ヲ定ムルヲナシ

斯ク後犯前刑ノ執行ヨリ重キ時ハ其重キモノヲ以テ先ニ

スル所以ノモノハ若シ前刑執行中逃走等ヲ爲シ執行ヲ免ル、キハ後犯ノ所刑ハ未タ何等ノ痛痒モナクシテ免カルレバナリ又斯ク速ニ執行ヲ改ムル時ハ他ノ犯人大ニ觀戒スル所アルヲ以テ大ニ懲罰ノ効ヲ奏スルノ緒トナルベシ

第十章 數人共犯及正犯從犯

法律ニ於テ數人共犯ノヲ定メ正犯ト從犯トノ區別ヲ明ラカニス

二人已上共ニ罪ヲ犯ス者ハ皆正犯トシ其犯罪ノ場ニ至ルニ非スシテ其犯罪ヲ幫助シ其目的ヲ容易ニ達セシムルノ所爲アルモノヲ從犯トシテ其所罰ニ輕重ノ差ヲ設ケタリ

一人ニシテ單ニ罪ヲ犯セル場合ニ比較スレハ數人通謀シテ之ヲ行フ者其成功ヲ遂クルニ易キノミナラス社會ニ於テ危険トスルノ念慮モ又大ナリ故ニ強盜竊盜及ヒ家宅不侵ノ如キハ著シク刑ヲ加重シテ罰スルヲ規定セルモ其從犯ニ至テハ其犯所ニ加功セサルヲ以テ別段加重シテ罰スルヲナシ而シテ斯ク正犯ヲ加重シテ罰スルノ精神ヨリ推及スレハ假令法律ニ於テ加重ノ明文ヲ掲ケサル種類ノ犯罪詐欺毆傷強姦等ノ如キモ一人ニテ之ヲ行フ者ニ比スレハ其狀情ノ重キヤ言ヲ踈タサルナリ

犯罪ノ教唆者ハ又正犯トシテ論スルヲ規定セリ此教唆

者ナル者ハ他人ヲシテ不良ノ行爲ヲ決意セシムル者ニシテ其情狀最モ惡ム可キモノトス茲ニ稍モスレハ教唆者ト從犯ト誤ル可キ恐レアル者アリ左ニ其例ヲ掲ケ以テ是レカ見解ヲ附セン例ヘハ甲者強盜ニ入ラントスルノ意ヲ決スルモ人ヲ脅迫ス可キ器ヲシ依テ友人乙ニ内情ヲ語り利刃一口ヲ借用センヲ求ム乙諾シテ銘刀一口ヲ與フルカ如キハ刀ヲ得テ始メテ惡意ヲ實行スルヲ決意シタルモノナリトスル時ハ恰モ教唆者ノ如シト雖モ余ハ決シテ教唆者ヲ以テ論スルモノニ非サルヲ信ス何トナレハ乙ニ語レル時ニ於テ既ニ盜ヲ行ハントスルノ決意アルモノナ

レハナリ
 是ニ反シ未タ強盜ヲ行フノ決意ナク只己レノ困窮ナル事
 情ヲ語り其將來生活ノ方法ナキヲ歎スル者ニ對シ短銃若
 クハ刀劍等ヲ貸與シ是ニテ人ヲ脅迫シテ以テ財ヲ得ヘン
 ト教示シ若クハ強盜ヲ行フキハ多數ノ財ヲ得ヘキトヲ語
 リ陰ニ其念慮ヲ生セシメ貸與スルニ兇器ヲ以テスルカ如
 キハ之ヲ教唆者ト爲スナリ
 又綜テ從犯ト稱スルモノハ犯罪ノ前ニ在テ其情ヲ知テ幫
 助シタル者ヲ云フ若シ犯罪ノ后ニ在テ是ヲ幫助シタル者
 ハ之ヲ從犯トセス

然レモ犯罪后情ヲ知テ之ヲ助クル場合ニ於テ社會ノ害ト
 ナル可キモノハ刑法特ニ之ヲ掲ケテ一種ノ犯罪トシテ之
 ナ罰ス例ヘハ罪人ヲ隱匿スル罪又ハ贓物ト知テ寄藏故賣
 スル等ノ罪是ナリ
 犯罪ノ種類ニ依リ二人已上ニ非サレバ成立セサルモノア
 リ例ヘハ姦罪若クハ賭博ノ如キ是ナリ
 數人共犯ナルモノハ必ラスシモ其場所ヲ同フスルトノミ
 ニ非ラス例ヘハ一人甲所ニ在リ一人乙所ニ在テ互ニ盜取
 スル所ノ贓物ヲ交換シ犯跡ノ發露ヲ防クカ如キモ亦共犯
 ナ以テ論スルモノトス

又甲乙二人連合シテ意恨アルモノ、家ニ突入シ甲者ハ其人ヲ押へ乙者ハ之ヲ斬殺スルカ如キ場合ニ於テハ甲者ハ犯罪ヲ幫助シテ其結果ヲ容易ナラシメタルモノ、如シト雖モ決シテ從犯ヲ以テ論ス可キモノニ非ス何トナレハ其場所ニ至リ甲乙二人カ協力ニテ其人ヲ殺シタルモノナレハナリ

茲ニ一ノ疑問アリ甲乙二人通謀シ竊ニ人ノ家宅ニ入甲ハ家宅ニ侵入シ乙ハ其門前ニ在テ巡吏ノ來テ捕拿セントスルノ豫防ニ備フ甲ハ裏門ヨリ容易ニ品物ヲ運出シ去レリ此場合ニ於テハ乙ハ正犯ナルヤ否ト云フニアリ

又甲乙丙ノ三人一人ノ婦女ヲ捕ヘテ強姦セントシ甲ト乙トハ婦女ノ手足ヲ押へ丙ハ姦情ヲ遂ケ甲乙未タ輪姦スルニ至ラスシテ巡吏ニ捕拿セラル此甲乙ハ丙者ト共ニ強姦ノ正犯トスルヤ否

此二問共ニ皆正犯ナリト信ス何トナレハ其犯所ニ加功シ共ニ協力シテ以テ此犯罪ヲ成立セシメタルモノナレハナリ
二人以上共ニ同一ノ場所ニ於テ同時ニ罪ヲ行フモ其數人同意協謀ノ約アルニ非サレハ共犯ヲ以テ論スルヲ得ス
假令ハ一人竊盜ニ入り物品ヲ搜索スル際又一人其家ニ入

リ偶然其場所ニ落合フト雖共ニ行ハントスルノ談合ナク互ニ自カラ欲スル所ノ物品ヲ持去リタルカ如キ又甲者乙者ヲ毆打シ去ラントスルニ際シ丙者モ乙者ニ怨恨アルヲ以テ又來テ共ニ之ヲ毆打シタルカ如キハ共犯ヲ以テ論スルヲ得サルモノト信ス故ニ數人共犯トシテ論ス可キモノハ同意結合アリシヲ必要トスルナリ

第十一章 未遂犯罪

刑法ニ於テ未タ其事ヲ遂ケサルノ行爲ヲ指シテ未遂犯トシ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰スルナリ
斯ク未遂犯ヲ指定シタルモノハ未タ其事ヲ遂ケサルヲ以

テ害ヲ蒙リタル者ナキガ故從テ其刑ヲ自然輕減セサル可カラス故ニ斯ク減スル所以ナリ

犯罪ハ始メ之ヲ爲サントスル意念ニ生シ愈之ヲ行ハントスル決意ヨリ始メテ隱謀協議若クハ之ヲ遂クルノ豫備ヲ爲シ是ヨリ實行ヲ以テ遂ニ其目的ヲ達スルモノナリ

法律ニ於テ未遂犯トシ罰スルヲ得ルモノ特ニ定メタル場合ヲ除クノ外ハ既ニ實行シテ其事ヲ遂ケサル場合而已ヲ云フ故ニ例ヘハ人ノ所有物ヲ窃取セント其家ニ潜入スルモ未タ其物品ヘ手ヲ觸レサル以上ハ豫備ノ所爲ニ止ルモノニシテ未遂犯トシテ罰スルヲ得ス又其形大ニシテ

袖中等へ入ル、能ハサル物品ヲ運出セントスルニ際シ事
 主ニ覺知セラレ取戻サレタル如キハ未遂犯ヲ以テ論スヘ
 キモ玉或ハ其他小形ノモノニシテ輒ク袖中ニ納ムルヲ
 得ルノ物品ニシテ之ヲ袖中ニ納メ將ニ門外ニ出ントスル
 ニ際シ事主其物品ノ紛失シタルヲ覺知シテ其人ヲ糺シ遂
 ニ袖中ニアルヲ發覺シタルカ如キハ既遂犯ヲ以テ論ス
 可キモノトス

又他人ノ物品ヲ窃取シ後之ヲ一見スルニ自己ノ物品ニテ
 アリシガ如キハ如何トノ問題アリは無効ノ犯罪ナリ然レ
 此之ヲ無罪ト爲ス可キモノニアラス何トテレハ人ノ物ヲ

以テ我ヲ富サントスル惡意其事ヲ實行シタル形跡ハ明了
 ナレハナリ只意外ノ手違ヒヨリシテ其事ヲ遂ケサリシ者
 ナリ故ニ等シク未遂犯ヲ以テ論スルノ至當ナルヲ覺フ

又竊盜事主ニ覺知セラレ逃走スルニ際シ其竊取スル所ノ
 物品ヲ取落シテ去ルノ場合ニ於テハ等シク無効ノ犯罪ヲ
 リト雖此之ヲ未遂ヲ以テ論スルヤ又既遂ヲ以テ論スルヤ
 ノ問題アリ或人ノ見解ニ依レハ其事主ノ覺知シ得可キ場
 所例へハ庭前若クハ家屋内等ニ落シ去ルモノハ未遂ヲ以
 テ論シ若シ事主其物品ヲ發見スル能ハサルノ場所例へハ
 門外又ハ往還等へ落シ去リタル場合ニ於テハ既遂犯ヲ以

テ論シテ可ナリト

予ハ此場合ニ於テハ門ノ内外事主ノ發覺ノ有無ヲ論セス
既遂犯ヲ以テ論シ得可キモノト信ス何トナレハ既ニ其目
的ヲ達シ竊取シ得テ而シテ後誤テ落シ去リタルモノナレ
ハナリ然レモ其物品巨大ノモノニシテ到底持去ル丁能ハ
サル種類ノ物ニシテ事主ノ追捕セントスルニ際シ置キ去
リタルカ如キ場合ニ於テハ門ノ内外ヲ論セス未遂犯ヲ以
テ論スルノ至當ナルヲ覺フ法律ニ於テ隱謀協議若クハ豫
備ノ所爲アリシ而已ヲ以テ犯罪ヲ組織スルモノアリ是内
亂ニ關スル犯罪及ヒ偽造寶貨ノ犯罪是ナリ

斯ク是等ノ犯罪ヲシテ隱謀協議若クハ豫備ノミヲ以テ犯
罪ヲ組織スル所以ノモノハ若シ其目的成立スル時ハ殊ニ
社會ノ害著シク大ナレハナリ
又其目的ハ恰モ達セサルカ如クニシテ尙其所爲ヲ指シ既
遂犯罪ヲ以テ論スルモノアリ例ヘハ船舶ノ覆没ヲ目的ト
シテ浮標若クハ燈臺ヲ毀壞スルノ類是ナリ
本編ハ法ノ區別ヨリ未遂犯罪ノ大意迄之ヲ十一章ニ分チ
刑法ノ精神ヲ簡畧ニ説明シ以テ其大意ヲ了解スルノ用ニ
供スルモノトス
刑法初步畢

明治十六年四月廿六日板權免許
明治十六年五月 出版

定價金六拾錢

著者

朽木縣平民

鈴木源策

新潟縣中歌城郡
田端町寄留

新潟縣平民

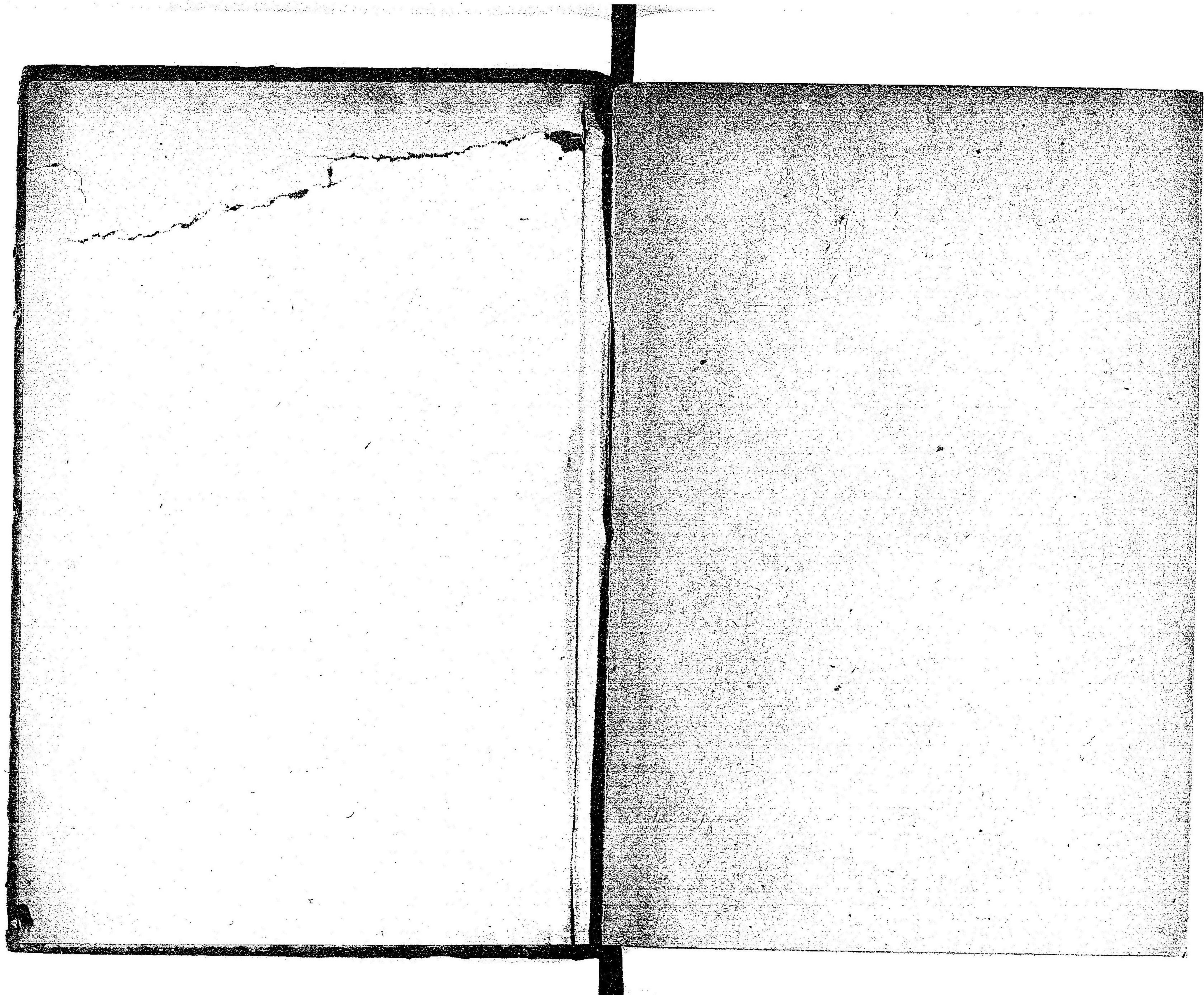
本多勝太郎

新潟縣越後國中
頸城郡高田吳服
町七十四番地

東京横山町三丁目

内田彌兵衛

大賣捌所



東 京 圖 書 館

新 書 門

五
十

部 類 函 架 號 冊

本日
刑法
初歩

二十六年五月印行

036131-000-6

特15-420

日本刑法初歩

鈴木 源策 / 著

M16

BBP-0796



特
4